

県内3医療生協へ、CO・OP 彩果菜園 を贈呈！



岡山県生協連は、コロナ禍で医療・介護現場で日々がんばっている岡山医療生協、倉敷医療生協、津山医療生協の職員のみなさん 2,516 人に 10,200 本の「CO・OP 彩果菜園」（1食分以上の野菜を原料にしている野菜果実ジュース）を贈りました。



県内の1日あたり感染者数は3,000人を超え、発熱外来は問い合わせが殺到しパンク状態、救急搬送困難事例も増加しています。各医療生協では出勤できない職員が急増し、部署を超えた応援や、保健所業務が移管したことによる業務過多など、現場は非常に厳しい状況が続いています。



8月17日、県生協連 大同久人常務理事が、岡山医療生協を訪れ、和田博知専務理事をはじめ、職員のみなさんに直接ジュースをお渡ししました。「こういう状況になると、職員は「私たちの苦勞を分かってもらえない」という気持ちになるので、一人じゃない、応援して下さる生協の仲間がいるんだということが何より励みになります。」（岡山医療生協 和田専務）



同日午後には、倉敷医療生協を訪れました。「コロナ当初は「医療従事者を支えよう」と言っていたが、近ごろは発熱外来の予約ができず怒られることもあります。職員は精神的にきつい。今回の取り組みは、本当にうれしいです、元気が出ます。」（写真左：水島協同病院 亀山事務長）

23日には、津山医療生協にもお届けします。



（左から）岡山東中央病院、コープ倉田歯科のみなさん/倉敷医療生協 総務部等のみなさん/倉敷医療生協の各事業所仕分けを手伝ってくれたチーム未来のみなさん。手には「コロナに負けない！」のメッセージがありました。